

# 八代の宝から世界の宝へ 妙見祭を彩る人たち

「八代妙見祭の神幸行事」がユネスコ無形文化遺産へ登録されたことを記念して、40ある出し物と祭りを彩る人たちの思いを紹介します。



1 獅子

妙見祭の獅子舞は、中国風の衣装や楽器を用いているのが特徴で、八代城下の豪商・井桜屋勘七が奉納したのが始まりです。獅子は、角2本・胴が赤と白色の雄獅子と、角1本・胴が赤と黄色の雌獅子で1対。1匹の獅子の中に2人が入り、頭・前足と尻尾・後足をそれぞれ受け持ち、チャルメラや太鼓、ドラに併せて表情豊かに演じます。

**中嶋町獅子舞保存会 楳木孝一さん**

ユネスコ無形文化遺産への登録は、明治・大正・昭和・平成と、これまで途切れることなく受け継がれてきたたまものです。

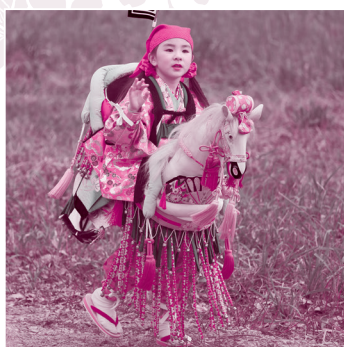


2 花奴

花奴は、松江村の虎右衛門が江戸花奴の作法を習い伝えたのが始まりと言われ、宝暦2年(1752年)には、行列に出ていることが確認されています。先頭の2人が持っている道具は、城主の衣装を入れるはさみばこ挟箱です。次は雨傘である立傘です。最後は城主の「かぶり笠」を乗せる丸い台笠で、黒い布に覆われています。

**高小原村花奴組 吉田吉喜さん**

これからも八代妙見祭をはじめ、花奴の伝統を守っていき、次の世代へ確実に引き継いでいきたいです。



3 木馬

木馬は、江戸時代に八代城下に住む商人たちが、子どもが七五三を迎えるお祝いに、木馬や衣装をあつらえて奉納し、12頭が出されていきました。明治時代以降、奉納が途絶えていきましたが、昭和62年に絵巻物などをもとに復元され、今では総勢12頭のきらびやかに飾られた馬にまたがる子どもたちの晴れ姿が祭りで見られます。

**八代木馬保存会 成尾善明さん**

今後も多くの人に八代妙見祭を見ていただきたい。毎年、木馬12頭を奉納できるよう尽力していきます。



4・5 鉄砲・毛槍

鉄砲・毛槍隊は、江戸時代には祭りの警護のため八代城の足軽や八代郡の郡筒こおりづつが務めていました。明治の八代城廃城に伴い途絶えていましたが、絵巻をもとに、40挺の鉄砲を担ぐ鉄砲隊、24本の長柄槍を持つ毛槍隊が、平成2年に復元され、威厳のある整った隊列を見ることができ

ます。

現在は、秀岳館高校の生徒が妙見宮祭礼絵巻を完全再現するため神幸行列に参加しており、八代妙見祭の一翼を担うとともに、学校全体で保存継承に取り組んでいます。

**秀岳館高校2年 原田浩志さん**

**(八代第二中学出身)**

妙見祭に興味があり、去年初めて参加しました。ユネスコ無形文化遺産に登録された「八代妙見祭の神幸行事」に携われたことを本当に誇りに思います。

**秀岳館高校3年 行徳洋樹さん**

**(久留米良山中学出身)**

八代の皆さんには、さまざまな形でお世話になっているので、感謝と恩返しを表現したく野球部のみんなと参加しました。

八代妙見祭の主役の一人として参加でき、本当に良かったと思っています。



- 1 獅子
- 2 花奴
- 3 木馬
- 4 鉄砲
- 5 毛槍
- 6 白和幣
- 7 籠
- 8 笠鉾菊慈童
- 9 神馬
- 10 神馬奉行
- 11 甲冑武者
- 12 大麻
- 13 大太鼓
- 14 神官
- 15 阿須波神
- 16 火王・水王・風王
- 17 奏楽大太鼓
- 18 奏楽
- 19 四神旗
- 20 紙幣
- 21 三矢
- 22 対の槍
- 23 御太刀
- 24 神輿
- 25 長刀
- 26 紫翳
- 27 菅翳
- 28 立傘
- 29 斎王
- 30 笠鉾本蝶舞
- 31 笠鉾蘇鉄
- 32 笠鉾西王母
- 33 笠鉾狸々
- 34 笠鉾蜜柑
- 35 笠鉾恵比須
- 36 笠鉾松
- 37 笠鉾迦陵頻伽
- 38 流錫馬
- 39 龜蛇(方メ)
- 40 飾馬(花馬)